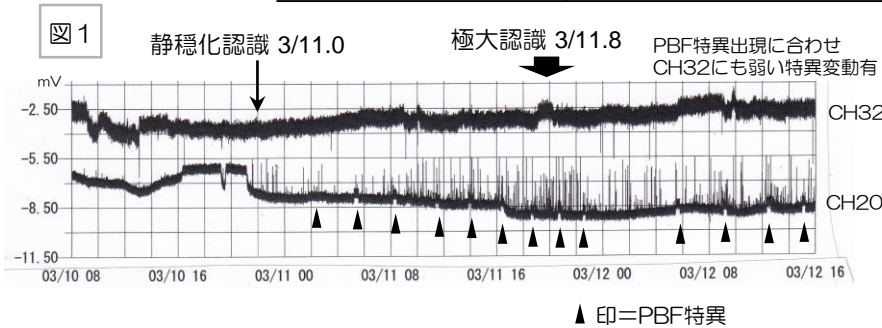


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期変動 PBF特異再出現 Stage-32直前変動 or Stage-33極大の場合は 明日 3/13 対応地震発生の可能性否定困難



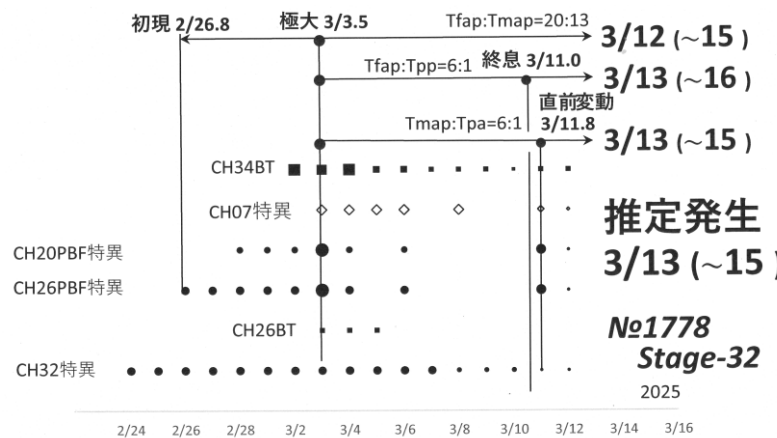
◆現在まで 3/12±3 発生の可能性を報告しています。3/10夜にCH32特異が静穏化した可能性が観測され、このまま静穏基線が継続するか見ておりましたところ、3/11朝から八ヶ岳のCH20・26 にPBF特異が出現し出しました。

◆再出現したPBF特異について、3つの可能性が考えられました。
1) Stage-32の直前変動の可能性
2) Stage-32の前兆期間最後の変動
3) Stage-33 (次の極大) のために出現PBF特異には次の点があります。

- ①PBF特異は集中出現している
- ②PBF特異には周期が短い極大が認識される
これらから、上2)の前兆期間最後の変動というのは考えにくく、3)の次の極大の場合は、現在周期が伸びてきているため、既に3/11.8が極大認識となり、初現 3/11.1で計算しますと、1)の場合と同じ3/13 発生となります。

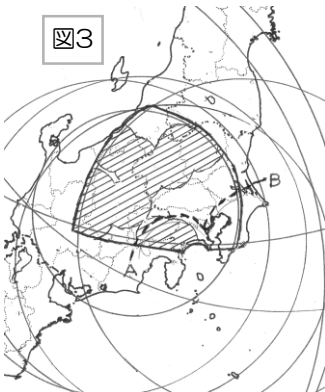
◆以上のことから、明日3/13発生（誤差3/15まで）の可能性は否定できません。但し、3/11.0の静穏化認識直後から直前変動が出現することも過去には例がないため、前述1)の可能性も難しいところです。このため、本日Stage-32の静穏化の場合では3/15（～3/18）の可能性も完全否定は困難なことを一応記しておきます。現在以降の観測でPBF特異が継続するなど、上記の推定を修正すべき変動が観測された場合は続報させて頂きます。また3/18までに発生無い場合も続報。

図2 下図 3/11中心出現のPBF特異が直前変動であった場合のStage-32拡大図



推定発生 3/13 (～15)
No1778 Stage-32 2025

- 推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域
図3斜線領域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- 推定時期：3月13日（～15日）の可能性
（または、可能性低いが 3/15～3/18の可能性←3/11～12 PBF特異が直前変動でない場合）
※PBF特異が継続の場合は、3/15以降の可能性となるため続報



- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）
- ※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。